

日本簿記学会第40回全国大会

# 簿記教育の可能性

## 複式簿記相対化の視点から

竹中 徹

t-takenaka@po.kbu.ac.jp

KYOTO BUNKYO UNIVERSITY



# 報告の構成

- はじめに
- 「大学全入時代」のもたらすもの
  - 大学間格差
  - 専門教育の「キャリア教育」化と蹉跌
- 「ミニマム」な簿記教育
  - その必要性
  - 何を教えるべきか
- 「相対化」を基軸とした教育例
- おわりに：簿記教育の拡張可能性

# はじめに: 背景と目的

- 少子化に伴う大学入学定員の供給過剰は、定員割れをもたらし、その規模は年々拡大しつつある。
- 日本私立学校振興・共済事業団(2023)によると、2023年度における定員未充足私立大学は320校(53.3% : n=600校、対前年度比+6%)
  - 充足率平均は99.59%。東京、愛知、京都、大阪を除く地方都市は全て100%未満。入学定員規模1500名未満の大学は全て充足率平均100%未満。
  - 学部別で見ると、社会科学系学部は102.7%(次頁表)となっているが、過去の調査では未充足の学部が相対的に多いとの指摘もある(葛城ほか(2016)(2017))。

# はじめに: 背景と目的

		社会科学系 学部(全)	経済学部	経営学部	法学部	商学部	社会学部	社会 福祉学部	現代 社会学部	情報学部	人間 社会学部	総合 政策学部	経営 情報学部
集計学部数	2022	528	90	88	79	29	26	21	13	10	13	12	10
	2023	541	89	89	80	29	27	20	14	14	13	12	11
	前年度比	13	-1	1	1	0	1	-1	1	4	0	0	1
入学定員充足率(%)	2022	102.73	103.6	104.78	105.13	104.86	102.6	85.83	101.64	111.58	91.06	107.32	100.52
	2023	102.7	105.39	106.55	103.15	103.54	101.14	80.26	100.84	113.36	91.08	101.3	99.23
	前年度比	-0.03	1.79	1.77	-1.98	-1.32	-1.46	-5.57	-0.8	1.78	0.02	-6.02	-1.29
		経済 経営学部	観光学部	政治 経済学部	現代 ビジネス学部	人間 福祉学部	国際 経営学部	総合 経営学部	国際 観光学部	総合 福祉学部	経営 経済学部	その他	
集計学部数	2022	10	6	5	5	4	4	4	4	3	3	89	
	2023	10	6	5	5	4	4	4	4	3	3	95	
	前年度比	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
入学定員充足率(%)	2022	90.33	87.55	101.58	91.46	97.46	89.29	117.83	85.51	91.85	88.49	101.9	
	2023	98.68	82.95	98.85	92.06	93.81	105.45	116.81	87.45	89.83	90	100.57	
	前年度比	8.35	-4.6	-2.73	0.6	-3.65	16.16	-1.02	1.94	-2.02	1.51	-1.33	

私立学校振興・共済事業団(2023)より作成

# はじめに: 背景と目的

- 定員未充足大学(学部)では、学力を重視しない入試方式(指定校入試、総合型など)の拡大と相俟って、非選抜型学生(受験を経験しない学生)を多く抱えることとなる。
  - 「非選抜」であるが故に、従来想定しなかった学習履歴や学習指向性をもつ学生の増加—いわゆる学生の多様化—へと繋がる。
- 本報告では、非選抜型学生を多く擁する大学を居神(2010)における用語に従い、「マージナル大学」とした上で、以下の3点を検討する。
  - マージナル大学において必要とされる教育
  - ミニマムな簿記教育の必要性
  - 簿記教育の拡張可能性

# マージナル大学における教育：学生の傾向

- 三宅(2011)による学生の特徴的傾向
  - 授業に対する無意味感
  - 疑似達成志向(授業出席=達成)の強さ
  - 教養志向の低さ
  - 目的意識の低さ(無さ)
  - 進学がミスセレクションであったことの自覚
- 葛城ほか(2018)による学生の特徴的傾向
  - 授業外学習時間の少なさ
  - 高校までに学習習慣が身についているか否かによる学習意識の顕著な差
  - 有学習群では、授業の意味性が高く、予習復習もし、資格取得への意識も高い

# マージナル大学における教育:学生の傾向

- 葛城ほか(2018)による学生の特徴的傾向

	BF大学群	中堅大学		BF大学群		
				無学習群	有学習群	
授業と関連する一日の授業外学習時間	31.0分	54.6分	**	7.1分	41.0分	**
遅刻・欠席が多い	1.85	1.95		2.33	1.67	*
授業はできるだけ休まないようにしている	4.42	4.26		3.83	4.65	**
授業中に友人と話すことが多い	2.94	2.54	*	3.30	2.78	
授業の予習をよくしている	2.40	2.38		1.74	2.67	**
授業の復習をよくしている	2.57	2.79		1.78	2.90	**
教員に授業内容についてよく質問している	2.10	1.91		1.82	2.22	
専門分野に関する本をよく読んでいる	2.06	1.93		1.65	2.24	*
図書館をよく利用している	2.75	2.41		2.26	2.97	*
資格試験のためによく勉強している	2.58	2.27	*	1.96	2.85	**
授業内容について友達とよく話している	2.95	3.21		2.48	3.11	*
友達と一緒によく勉強している	2.40	2.76	*	1.89	2.56	*
部活動・サークルに熱心に取り組んでいる	2.79	3.14		2.87	2.74	
アルバイトをよくしている	3.12	2.71		3.28	3.04	
授業は自分にとって意味のあるものだと思う	3.92	3.77		3.59	4.05	

出典:葛城ほか(2018)165-166頁

# マージナル大学における教育:何が重要か

- 学生の傾向からの含意
  - 有学習群に類別される学生に対しては、学習に対する外的動機づけの必要性は乏しい。
  - 無学習群に類別される学生に対しては、学習に取り組ませるための特別な動機づけが重要。
- 本田(2000)では、教育における学習行為の不確実性(到達・理解・受容)を解消する手段として、教育評価とともに教育内容のレリバンスの必要性が示唆される。
  - レリバンス:何かあるいは誰かにとって意義ないし有効性

時間軸	レリバンスの種類	対象
現在	即時的レリバンス:「面白さ」の実感	個人
	市民的レリバンス:市民/家庭人/労働者として 生きる上での武器	
将来	職業的レリバンス:労働力の質	社会

出典:本田(2000)165頁



# マージナル大学における教育：何が必要か

- 学力そのものを対象とした研究は少ないが、両学習群に学習能力に差のある学生が混在するものと考えられる。
  - 学習能力の構成要素は多様であり、個別的な指導の必要性が高い。
- 学生は高校までの学習も不十分である可能性が高い(居神(2010)など)。
  - 授業内容として「市民的レリバンス」を意識したものが相対的に重要。
- 授業外学習時間が少ないことを前提とした指導が必要。
  - 特定の科目における積み上げ型学習は困難。
  - 多くの前提を必要とする思考は困難。

# 「ミニマム」な簿記教育:その必要性

- マージナル大学における教育を想定した場合、現在多く行われている簿記教育には以下の課題が存在する。
  - 簿記一巡を前提とした教育全体の量的課題
    - 学生は復習をしないという想定
    - 可能な限り前回までの授業内容を前提としない構成
    - 同内容を、繰り返し教えるという想定
  - 特定の組織経営を前提とした質的課題
    - 職業的レリバンスに動機づけされない学生に対する一定の有用性
    - 市民的レリバンスを意識した一定の教育内容

# 「ミニマム」な簿記教育:何を教えるべきか

- 前述の必要性を考慮した場合、限られた前提知識で、一定の効果が見込まれる教育内容である必要がある。
  - 本報告では石川(2015)と柴(2023)の2説を手がかりに、論理的思考を教育目的においた簿記教育を想定してみることにする。
  - 石川(2015)の複式簿記モデル;ストック・フローの2勘定システムによる損益2面計算
    - ストック勘定による結果計算とフロー勘定による原因計算
  - 柴(2023)の複式簿記モデル:資産・負債・純資産による財産計算
    - 差額としての純資産を導入したストック勘定による結果計算
- ⇒両モデルは、複式簿記システムの柔軟性と操作性を容認する点で共通する。

# 「ミニマム」な簿記教育:何を教えるべきか

## 論理的な思考の活動

	活動(略称)	略称	具体的な内容
①から⑥のそれぞれの活動において思考の過程や結論を適切に表現	① 規則, 定義, 条件等を理解し適用する。	①理解・適用	資料から読み取ることができる規則や定義等を理解し, それを具体的に適用する。
	② 必要な情報を抽出し, 分析する。	②抽出・分析	多くの資料や条件から推論に必要な情報を抽出し, それに基づいて分析する。
	③ 趣旨や主張を把握し, 評価する。	③把握・評価	資料は, 全体としてどのような内容を述べているのかを的確にとらえ, それについて評価する。
	④ 事象の関係性について洞察する。	④関係・洞察	資料に提示されている事象が, 論理的にどのような関係にあるのかを見極める。
	⑤ 仮説を立て, 検証する。	⑤仮説・検証	前提となる資料から仮説を立て, 他の資料などを用いて仮説を検証する。
	⑥ 議論や論証の構造を判断する。	⑥構造・判断	議論や論争の論点・争点について, 前提となる暗黙の了解や根拠, また, 推論の構造などを明らかにするとともに, その適否を判断する。

出典:教育課程研究センター (2013)15頁

# 「相対化」を基軸とした教育(教材例)

1. 大学祭で模擬店を開業するため、大学から5,000円、ゼミ教員から5,000円を借りた。
2. 模擬店で使用する備品2,000円を購入した。
3. 商品を製作するための材料7,000円を仕入れた。
4. 商品を販売し、代金として13,000円を受け取った。
5. ゼミ教員に5,000円を返済した。

[フロー勘定=損益]とした場合

	借方		貸方	
1	現金	10,000	借入金	10,000
2	備品	2,000	現金	2,000
3	仕入	7,000	現金	7,000
4	現金	13,000	売上	13,000
5	借入金	5,000	現金	5,000

[フロー勘定=収支]とした場合

	借方		貸方	
	借入収入	10,000	借入金	10,000
	備品	2,000	備品支出	2,000
	利益	7,000	仕入支出	7,000
	売上収入	13,000	利益	13,000
	借入金	5,000	借入支出	5,000

# 「相対化」を基軸とした教育(教材例)

ストック勘定				ストック勘定			
現金	9,000	借入金	5,000	備品	2,000	借入金	5,000
備品	2,000					利益	6,000
フロー勘定				フロー勘定			
仕入	7,000	売上	13,000	借入収入	10,000	仕入支出	7,000
				売上収入	13,000	備品支出	2,000
						借入支出	5,000

# 「相対化」を基軸とした教育(教材例)

前提となる知識	設問例	設問の狙い	論理的な思考との関係
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 取引に対する記録の必要性</li> <li>• 簿記5要素(4要素)の意味</li> <li>• 複式記入の原則(貸借複記)</li> </ul>	<p>それぞれの取引について、「現金(資産)」「備品(資産)」「借入金(負債)」「仕入(費用)」「売上(収益)」の5つの勘定科目を使って仕訳しなさい。</p>	<p>前提となる知識の確認</p>	<p>①理解・適用</p>
	<p>仕訳をストック勘定とフロー勘定に区分して集計した場合、それぞれの差額の意味は何ですか？</p>	<p>損益が同時に計算される事実の理解</p>	<p>②抽出・分析</p>
	<p>ストック勘定とフロー勘定それぞれで同じ差額が表されるが、差額を計算するための計算式を示しなさい。</p>	<p>損益計算プロセスの違いの理解(基本等式の理解)</p>	<p>③把握・評価</p>
	<p>ストック勘定とフロー勘定で同時に計算される差額が現金となるためには、どのような仕訳を行えば良いか示しなさい。</p>	<p>損益以外の計算目的への拡張</p>	<p>④関係・洞察 ⑤仮説・検証 ⑥構造・判断</p>
	<p>ストック勘定とフロー勘定で同時に同額の差額が計算される構造は、ほかの何かを計算する場合に活用できますか？</p>	<p>損益以外の計算目的への拡張</p>	<p>④関係・洞察 ⑤仮説・検証 ⑥構造・判断</p>

# おわりに: 簿記教育の拡張可能性

- マージナル大学における簿記教育を想定した場合、その教育内容は教員が経験上考える難易度に基づく尺度よりも、「単純⇔複雑」という尺度で捉えた上で、単純(ミニマム)な簿記教育を追求した方がより適合するものと考えられる。
- 今日大学で行われる簿記教育は、特定の組織経営を前提とした複式簿記システム(存在する簿記)を理解させることに重点を置いている場合が多いと思われる。
- しかし、複式簿記システムそのものの理解の上にたち、これを思考ツールとして活用すること(存在し得る簿記)を意識した教育もあり得るのではないか。



# 参考文献

- 居神浩(2010)「ノンエリート大学生に伝えるべきこと—マージナル大学の社会的意義」『日本労働研究雑誌』No.602, 27-38頁.
- 石川純治(2005)『キャッシュフロー簿記会計論(3訂版)』森山書店.
- 石川純治(2015)『複式簿記のサイエンス(増補改訂版)』税務経理協会.
- 宇田響(2023)「ボーダーフリー大学生に学習習慣を身につけさせるのがなぜ困難なのか—私立Z大学における教育系学部を事例として—」『中国四国教育学会 教育学研究ジャーナル』第28号,63-72頁.
- 葛城浩一 宇田響(2016)「ボーダーフリー大学の量的規模に関する基礎的研究」『香川大学教育研究』91-103頁.
- 葛城浩一 宇田響(2017)「ボーダーフリー大学の量的規模に関する基礎的研究(2)」『香川大学教育研究』115-129頁.
- 葛城浩一 (2018)「多様化した学生に対する大学と教員—ボーダーフリー大学を中心として—」『高等教育研究』第21集,107-125頁,香川大学.
- 葛城浩一 西本佳代 宇田響(2018)「ボーダーフリー大学生の学習実態に関する研究:アクティブラーニング型授業を中心に」『香川大学教育研究』第15号,161-174頁.
- 教育課程研究センター (2013)『特定の課題に関する調査(論理的な思考) 調査結果 ~21世紀グローバル社会における論理的に思考する力の 育成を目指して~』国立教育政策研究所.
- 柴健次(2005)「公会計における正味財産勘定に関する簿記的考察」『横浜経営研究』第26巻第1号,117-131頁.
- 柴健次(2023)「政府・非営利法人会計を教授する上での教育上の一試論」『会計教育研究』第11号,36-43頁.
- 島本克彦(2015)『簿記教育上の諸問題』関西学院大学出版会.

# 参考文献

- 中央教育審議会(2012)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)』文部科学省.
- 日本私立学校振興・共済事業団(2023)『令和5(2023)年度 私立大学・短期大学等入学志願動向』.
- 本田(沖津)由紀(2000)「教育内容の『レリバンス』問題と教育評価——社会システム論の視点から」長尾彰夫・浜田寿美男編『教育評価を考える』, 153-185頁, ミネルヴァ書房.
- 三宅義和(2011)「大学生の学びへの姿勢と大学の選抜生」『経済文化研究所年報』第20巻, 1-13頁, 神戸国際大学経済文化研究所.